

あなたの地区の接続率

%

裏面に参考データが
ありますのでご覧下さい。

ぐんま集排水だより



山上地区処理施設全景

処理施設を訪ねて

桐生市 農業集落排水事業
山上地区推進協議会

山上地区について 教えて下さい。

桐生市は、平成17年6月13日に桐生市、新里村、黒保根村の3市村が合併し、新「桐生市」として誕生しました。

本市は、群馬県の東部に位置し、東京から直線で約90kmの距離にあり、自動車で約2時間、東武鉄道で約1時間40分、JRで約2時間で結ばれています。

総人口は約12万5千人(平成22年10月末)で、総面積274.57km²の7割以上を占める山林や、渡良瀬川や桐生川などの河川が流れる、緑と水にあふれた自然豊かな市です。

また、日本を代表する絹織物の産地であり、のこぎり屋根の織物工場など近代化遺産の宝庫となっています。

山上地区は旧新里村西部に位置し、鎌倉時代に築城された山上城(現在は山上城跡公園として整備)を中心とした農村地帯であります。近年は宅地化も進み、非農家との混在も進んでいます。

事業への取り組みについて 教えて下さい。

山上地区は旧新里村内に4カ所ある農業集落排水事業の3番目の処理区域として、平成4年度に国の採択を受けました。計画処理

人口133人、同処理水量40.7m³/日で進められ、総事業費19億4千7百万円で平成9年8月に一部供用を開始し、平成12年度に建設事業を完了しています。処理方式はオキシゲーションディッチ方式です。発生汚泥につきましては、平成19年度に国の事業採択を受け、平成20年度に汚泥乾燥装置を設置し肥料化を行い、一袋12kgで袋詰めをして希望する受益者に無料で配布しています。葉物に良いと評判で、不足することも度々あります。

今後の課題等について お聞かせ下さい。

山上地区につきましては、接続率が約87%程になつて参りましたが、高齢化や費用面の問題で接続率が思うように上がらない処理区域もあります。また、供用開始後約20年を経過した施設もあり、老朽化も目立つてきました。家庭排水は我々が生活を営む上で出さずにはいられず、最も身近な環境問題だといえます。今後も周辺環境の保全・向上のため、接続率の向上や適切な施設の維持管理に取り組んでいきたいと思います。そのためにも、住民の皆様の理解を得られるよう農業集落排水の情報提供等に努めていきたいと思います。



山上城跡公園

農業集落排水事業に係る平成22年度トピックについて

群馬県県土整備部下水環境課

本県の汚水処理人口普及率は平成21年度末で71.4%という状況であり、全国で37位と低位とどまっています。県では平成21年度から「汚水処理人口普及率ステップアッププラン」による下水道や浄化槽、そして農業集落排水の汚水処理施設の整備を行なう市町村への支援を積極的に行なっていますが、景気後退や市町村の厳しい財政状況等により、思うように普及率が伸びない状況があります。このような中ですが、平成22年度における農業集落排水に係わるトピック的な事項3点について紹介したいと思います。

①地域再生基盤強化交付金(汚水処理施設整備交付金)の存続

昨年8月の平成23年度予算概算要求では、「地域再生基盤強化交付金は廃止」と示されました。最終的に12月24日の政府予算案においては、対前年比60%で国費620億円という額ではありますか予算計上されました。これは6月に行なわれた内閣府行政事業レビューの「廃止を含め抜本的な見直しを行なう」との評価結果に対応するものでしたが、本交付金は創設以来、本県の多くの市町村の地域再生、社会資本の整備等(道整備・汚水処理施設整備)に対して重要な役割を果たしてきたものです。これが、何の説明もなく突然「廃止」と発表され、多くの関係者が非常に驚き、今後の対応をどのようにしたらよいかと苦慮しておりました。

しかし、その後多くの関係団体からの政府に対する本交付金の存続に向けた要望活動があり、また、11月17日の参議院予算委員会において加藤修一議員(公明党)がこの件に関して質問し、菅総理大臣、片山地域活性化担当大臣(総務大臣)、馬淵國士交通大臣などから、「継続事業に関するもの」と考へています。本県でも群馬県土地改良事業団体連合会を始め、下水道や浄化槽の関係団体から政府へ要望活動がなされており、感謝を申し上げることろ

です。本県のみならず、全国多くの皆様の要望によって存続した大切な交付金なので、今後も有効に活用し、汚水処理人口普及率の向上につなげてもらえばと考えています。

②肥料化施設等の利用状況調査結果

昨年11月に農業集落排水も対象とする会計検査院の実地検査が行われました。その中で汚泥脱水装置・汚泥乾燥施設やコンポスト施設などの肥料化施設(以下「肥料化施設等」という)の稼働状況、汚泥の利用状況等の関係で資料提出や説明を求められました。

今回の実地検査を契機に県内の109施設について、関係市町村の皆様から協力を得て、肥料化施設等の有無・汚泥の利用状況等の再調査を行いましたので、その内容を(表-1)「肥料化施設等」の有無による汚泥の利用区分

(表-2)「肥料化施設等」あり地区における装置区分

区分	地区数
汚泥脱水装置	67
汚泥乾燥機	19
肥料化施設	8
汚泥炭化施設	1

(表-3)汚泥の利活用状況

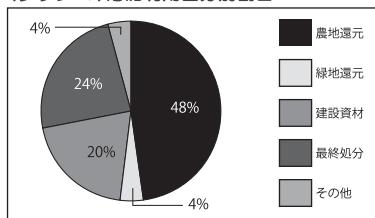
区分	汚泥量(t)	占有率(%)
農地還元	2,046	46.2
緑地還元	159	3.6
建設資材	1,133	25.6
最終処分	1,087	24.6
計	4,425	100.0

イクル率としては約75%となっていますが(表-3)、全国的にも循環型の社会形態が叫ばれていますので、この率をできる限り向上していくような取組を各地域、各市町村でお願いいたします。

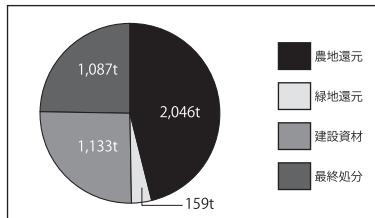
(表-1)「肥料化施設等」の有無による汚泥の利用区分

区分	施設あり	施設なし	計
農地還元	49	3	52
緑地還元	3	2	5
建設資材	7	15	22
最終処分	6	20	26
その他	3	1	4
計	68	41	109

(グラフ-1)汚泥利用区別割合



(グラフ-2)汚泥の利活用状況



③農業集落排水から下水道への接続事例の誕生

昨年度の第14号(平成22年2月)にて、

接続事例の誕生

県内でも施設の老朽化、人口の減少、市町村財政の悪化などの理由により、農業集落排水施設の下水道への接続、隣接する農業集落排水施設への統合などが検討されはじめていると紹介しましたが、伊勢崎市において、下水道へ接続するといふ事例が誕生しました。これについては、平成22年12月31日の上毛新聞の1面にも大きく取り上げられました。

この事例は効率的な生活排水処理を進めるため、旧赤堀町にある二つの農業集落排水施設を隣接する市公共下水道に接続しようというもので、これにより長期的に維持管理費を圧縮させたいという考え方によるものです。市からの相談を受け、県の内部で調整を行い、現在農林水産省関東農政局との調整を進めているところです。

魚沼市では、農業集落排水施設どうしの

おわりに

以上、農業集落排水の平成22年度におけるトピック的な3点について紹介してきました。政権交代により事業仕分けや行政事業レビューが実施され一括交付金の創設が叫ばれ、平成23年度には「地域自主戦略交付金(仮称)」が創設されます。農業集落排水の補助制度はめまぐるしく代わっていますが、生活環境の改善、公共水域の保全、さらには汚水処理人口普及率の向上という目的を達成させるため本事業の必要性は代わっていません。

県としては、今後も「新たな地区」「更新的な対策を行う地区」、さらには「施設の統合等」を行なうとする市町村に対して積極的に支援を行っていく考えでありますので、今後も会員の皆様におかれましては、引き続き農業集落排水の事業推進に対して御尽力、御協力をお願ひいたします。

太田市の強戸北地区集落排水事業は、平成8年から建設工事を開始し平成13年度に完成、平成13年4月に供用を開始しました。施設は太田市の北部に位置し、北金井町、菅塙町、西長岡町の3地区を処理区としています。3地区ともに田畠が多く稻、麦、野菜作りなど農業の盛んな地域です。施設ができる前は、汲取り式や単独浄化槽の家庭が多かったため、台所や洗濯などの家庭の排水が道路側溝に流れ、農業用水路や河川に悪影響を及ぼしていました。また、臭気等もあり、蚊・ハエ等が湧いて農業用水路や河川の水が濁っていたように感じられます。

処理施設の供用が開始されると

もに農業用水路や河川に変化が生じ、水に透明感が表われてきました。また、臭気もなくなり川がきれいになりました。小魚等も増えたように思います。他の住民の方から「臭気がなくなったり側溝がきれいになつたね」との声が聞こえるようになりました。

供用開始から9年程の歳月が経ちますが、いろいろな事情で全ての家庭が施設を利用している状況にはなつていません。地域住民と太田市とが一丸となって協力し、早期に全ての家庭が施設を利用するすることを期待しているところです。

太田市において農業集落排水事業は、なくしてはならない事業であり、農業用排水の水質保全及び生活環境の改善に大きな役割を果たすことを確信しています。また、誰からも「太田

市は、きれいな街住みよい街」と言われるような街になる事を期待しています。

山上地区農業集落排水事業 山上地区在住 利用者

内に汚泥乾燥棟も併設され、汚泥乾燥処理施設により汚泥から農地還元を行う為の肥料へのリサイクルが行われております。今後の環境保全を担うより充実された施設の1つとして脚光を浴びております。私も少しばかりの耕地もありますので、機会があつたらリサイクル肥料の効果も試してみようかとも思つております。

最近においては周囲の住宅の増加に豊富な水資源が耕地を潤し農業が展開されている地区です。しかし、農業集落排水事業が実施されるまでの間は大多数の世帯の生活排水処理については単独浄化槽、合併浄化槽、あるいは浸透式の処理に依存していた状況がありました。昨今の財政厳しい折りではあります

が、平成9年に行政当局のお骨折りにより本地区に待望の農業集落排水事業の施設(受益面積255ha)が一部供用開始となり、周囲のほとんどの世帯も接続を完了し、側溝の臭気もなくなり従来と比較した場合、農村生活環境の改善と公共用水域の水質保全等が格段に向上されてきているようにも思われます。

また、平成20年には本処理場敷地

が、内に汚泥乾燥棟も併設され、汚泥乾燥処理施設により汚泥から農地還元を行う為の肥料へのリサイクルが行われております。今後の環境保全を担うより充実された施設の1つとして脚光を浴びております。私も少しばかりの耕地もありますので、機会があつたらリサイクル肥料の効果も試してみようかとも思つております。最近においては周囲の住宅の増加に豊富な水資源が耕地を潤し農業が展開されている地区です。しかし、農業集落排水事業が実施されるまでの間は大多数の世帯の生活排水処理については単独浄化槽、合併浄化槽、あるいは浸透式の処理に依存していた状況がありました。昨今の財政厳しい折りではあります

が、平成9年に行政当局のお骨折りにより本地区に待望の農業集落排水事業の施設(受益面積255ha)が一部供用開始となり、周囲のほとんどの世帯も接続を完了し、側溝の臭気もなくなり従来と比較した場合、農村生活環境の改善と公共用水域の水質保全等が格段に向上されてきているようにも思われます。

遊び等をした記憶もあります。近年、地域全般的に言えることは、利便性の向上や生活様式の多様化とともに水路や河川が汚れて来ている傾向であるように見られます。それに対応すべく、農業用排水路や河川の水質保全・快適な生活環境を確保していくことは大切なことであります。それらを推進していく為には農業集落排水事業は必要不可欠の事業の一つであると思います。

今後下水道事業が実施されない各地区におかれましても、財政面等相当厳しい状況下ではありますが、行政当局におけるさらなる住環境整備を進めて頂きたいとお願いする者の1人です。

利用者の声

『水、よみがえれ!キャンペーン』が行われました。

平成22年11月27日(土)、県民に水環境を守ることの大切さを伝え、下水道・農業集落排水・浄化槽をPRするためのイベント「水、よみがえれ!キャンペーン」が、群馬県下水環境課の主催で行われました。

6回目となる今年は、会場を高崎市の「イオンモール高崎」に移し、協賛団体と協力企業が下水道・農業集落排水・浄化槽の役割と必要性、その仕組みなどを模型や写真パネルを使用しながら紹介したこと、約1,500名の入場がありました。

また、FMぐんまによる公開生放送では、污水処理をテーマにルーハ柴さんをゲストに迎え、環境カウンセラーの片亀さん、高崎市下水道局の須藤局長と群馬県下水環境課の白石課長とのトークショーも行われました。

※公開生放送終了後に、絵画コンクールの表彰式を行いました。



平成21年度 事業報告

平成21年4月
～平成22年3月

平成21年

- 6月・監査会及び監査役員会
- ・第19回通常総会並び研修会(前橋市内)
- 7月・全国農業集落排水事業推進協議会第20回通常総会(東京都)
- ・農業集落排水事業にかかる情勢報告・低コスト化の取組
- 6月～9月・農業集落排水に関する絵画コンクールの実施
- 10月・「ぐんま集排だより」編集委員会
- 11月・現地研修会(新潟県魚沼市「処理場の統合による施設機能強化」)
- ・農業集落排水事業推進研修会(東京都)
- 12月・農業集落排水に関する絵画コンクール表彰式(ベイシアIS伊勢崎)
- 3月・機関誌「ぐんま集排だより」(14号) 40,000部発行

平成22年

絵画コンクール作品紹介



最優秀賞
(群馬県知事賞)

渋川市立渋川西小学校
5年生 増田 琴瀬
水田の中に広がる世界
初めて田んぼに入った時に、足の感しょくやよく分からぬ生き物がいて、とてもおもしろかったので、もっと田んぼの中を見てみたいと思ってかきました。



上毛新聞社賞

渋川市立伊香保小学校
6年生 青山 怜奈
田園風景
緑豊かな町になってほしい。



群馬テレビ賞

渋川市立長尾小学校
5年生 萩原 晟龍
ほたる祭
家族とほたるを見に行った時のほたるのきれいさを絵にしてみました。



エフエム群馬賞

館林市立第九小学校
4年生 江田 伊織
田んぼとほくらの町
さかながおよぎ虫たちが元気いっぱい。おいしいお米が実るほくらの町を書きました。



連合会長賞

渋川市立長尾小学校
6年生 小菅 千晴
楽しいにんじん洗い
夏休みによくおばあちゃんのお手伝いでにんじん洗いをしたので、そななところをテーマに描きました。



協議会長賞

吉岡町立駒寄小学校
3年生 神垣 傑介
吉おか川に来たカワセミ
カワセミがサリガニをとるようなところです。

優秀賞

渋川市立渋川西小学校 4年生 増田深珠
伊勢崎市立あずま南小学校 4年生 磯百合乃
中之条町立沢田小学校 4年生 浦 侑穂
伊勢崎市立殖蓮小学校 4年生 佐藤大翔
伊勢崎市立あづま小学校 1年生 猪野泰加
館林市立第八小学校 3年生 飯田智也

佳作

伊勢崎市立殖蓮小学校 3年生 布施龍賢
渋川市立金島小学校 2年生 諸田英喜
渋川市立古巻小学校 3年生 高津 葵
中之条町立沢田小学校 4年生 田村清美
館林市立第九小学校 4年生 岩崎 瞳

伊勢崎市立殖蓮小学校 4年生 渡邊陽香
中之条町立中之条小学校 4年生 河原田優衣
伊勢崎市立三郷小学校 2年生 井上幸恵
中之条町立中之条小学校 4年生 浅川紗妃
中之条町立沢田小学校 4年生 田村広美

絵画コンクールについて

農村地域の環境保全と農業集落排水事業の啓発・普及を目的に、21世紀を担う子供達の視点から環境保全へのメッセージとして、絵画コンクールを開催したところ、8市町村、24小学校から319作品もの応募がありました。

審査については、専門知識者による事前審査のあと、本協議会役員、代表幹事、群馬県、土地改良連合会の関係者が審査し、最優秀賞(群馬県知事賞)、上毛新聞社賞、群馬テレビ賞、エフエム群馬賞、連合会長賞、協議会長賞、優秀賞6作品及び、佳作10作品を決定しました。

絵画コンクール表彰式開催

最優秀賞(群馬県知事賞)、上毛新聞社賞、群馬テレビ賞、エフエム群馬賞、連合会長賞、協議会長賞の表彰式を平成22年11月27日(土)に高崎市「イオンモール高崎」1階ホールで開催しました。

表彰式は、同日開催された「水、よみがえれ!キャンペーン」の公開生放送後に、エフエム群馬のアナウンサーの進行により受賞者へ賞状授与と記念品の贈呈を行いました。



家庭での心掛け

- ◆洗剤を利用するときは無リン洗剤を使う
- ◆台所の調理ごくず・てんぷら油等は流さないようにする
- ◆水洗トイレには溶ける紙を使用する
- ◆風呂場や洗面所の排水口に髪の毛、糸くず等を流さない



群馬県の汚水処理の現状

◆汚水処理人口普及率 71.4%
(農業集落排水、下水道、合併処理浄化槽
供用人口1,431,936人/県人口2,004,786人)

全国普及率 85.7%
全国順位 37位 (47都道府県中)

◆農集排処理人口普及率 6.3%
(農集排供用人口125,767人/県人口2,004,786人)

◆農集排処理人口接続率 71.7%
(接続人口90,137人/農集排供用人口125,767人)

(H22.3.31現在)